

徳島市の

## 環境資源情報ガイドブック



- この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。
- リサイクル適正の表示  
この印刷物はAランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。
- この印刷物は、植物油インキを使用しています。

リサイクル適性 (A)



## 1. 徳島市の環境の概要

(1) 位置・地勢	2
(2) 地形・地質	2
(3) 気候	4
(4) 土地利用	5
(5) 大気・水環境	6
(6) 将来に残したい場所	8

## 2. 地域別の環境の状況

(1) 川内・応神地域	10
(2) 国府・不動・北井上・南井上地域	12
(3) 入田・上八万地域	14
(4) 多家良地域	16
(5) 昭和・津田地域	18
(6) 渭北・渭東・沖洲地域	20
(7) 佐古・加茂・加茂名地域	22
(8) 内町・新町・東富田・西富田地域	24
(9) 八万・勝占地域	26

## 3. 市民参加による環境学習活動の紹介

28・29

私たちは、空気や水、動植物など身の回りの環境から多くの恵みを受けて生活しています。

しかし、近年、都市化の進展や科学技術の発達など利便性を追求した生活や大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルの定着により、ごみの増大、自動車の排気ガスによる大気汚染や生活排水による水質汚濁といった、日常生活が原因となる地域での環境への負荷が大きな問題となっています。

さらには、地球温暖化、オゾン層の破壊といった地球規模での問題、ダイオキシン類をはじめとする有害化学物質の問題など、非常に広域で、しかも将来に深刻な影響を及ぼすものへと大きく変容しています。

このようなことから、今ある環境をより良いものとし将来の世代に引き継ぐためには、市民、事業者、行政が互いに協力し、私たち一人ひとりが主役となって環境に配慮した行動に取り組んでいくことが重要となっています。

このガイドブックは、市民の皆様に、徳島市の環境の現状を紹介し、その重要性について考えていただくための基礎資料として、各方面からの情報をまとめたものです。

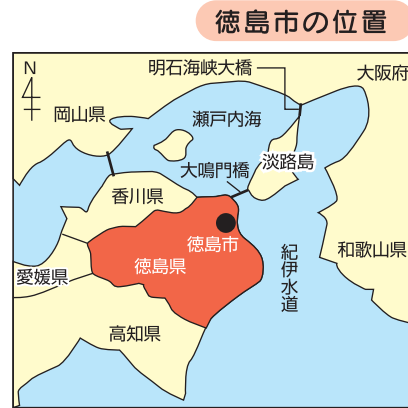
# 1-1.2 1.徳島市の環境の概要

## (1) 位置・地勢

四国の東端部にあたる徳島市は、東経134.34度、北緯34.4度に位置しています。市域の面積は191.68km<sup>2</sup>で、南北に19.45km、東西に16.4kmとなっています。

「四国三郎」と呼ばれる吉野川の沖積平野に発達した徳島市は、東部に紀伊水道を望み、南部は四国山地に連なる山々を背にした自然豊かな都市です。

万葉集に歌われた眉山や阿波藩主・蜂須賀家が居城を構えた城山が市域の中心部にあり、また、新町川や助任川などの河川が網目状に流れるなど、水と緑あふれる市街地を形成しています。



徳島市の位置

## (2) 地形・地質

徳島市の地形は、主に四国山地の東部にあたる山地と吉野川や勝浦川による三角州、デルタファン\*、谷底低地などの平地からなっています。

市域の南部には、四国山地に属する標高773.0mの中津峰山をはじめとする山々が見られるほか、市域のほぼ中央には、徳島市のシンボリック的存在となっている眉山（標高290m）が存在します。また、市域の北部から中部は吉野川に沿って徳島平野が広がり、東端で砂浜海岸や岩礫性海岸へ続くなど、徳島市は多様な地形を有しています。

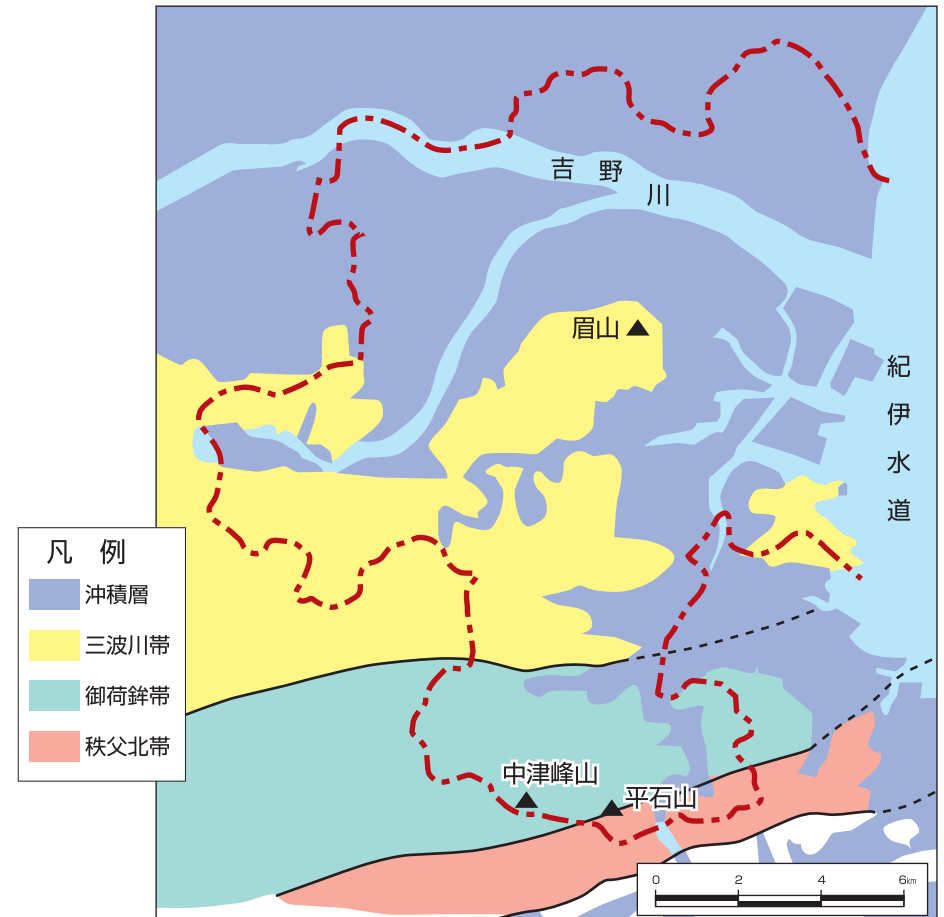
徳島市の地質は、平野を形成している沖積層と、山地を形成している外帯と呼ばれる堆積岩層に大きく分けられます。

吉野川による土砂の運搬・堆積の作用によって形成された沖積層は市域の北側にみられます。その南側に発達する堆積岩層は、北から三波川帯、御荷鉾帯、秩父北帯と

\* 三角州：河川によって運ばれてきた砂や泥が、河口付近に堆積して形成された低平な堆積地形である。  
\* デルタファン：三角州扇状地。深い湾入など静穏な海面に河川がそそぐ場所では、波浪や沿岸流の運搬作用が弱いために、扇状地の地先に三角州が成長した場合、平野全体としてデルタファンの地形となる。

よばれる地質構造の異なる3つの地帯<sup>ちたい</sup>に区分されています。三波川帯は、海底に堆積した堆積物などが変成作用を受けた結晶変岩で構成される地帯で、市域では眉山から八多川北側までの山塊が属します。御荷鉾帯は、火成岩が変成作用を受け緑色岩となった地帯で、市域では八多川以南の中津峰山麓を含む地域が属します。秩父北帯は、古生代から中生代に堆積した砂岩、泥岩、石灰岩の堆積岩や海底火山による玄武岩などで構成される地帯で、市域では最南部の平石山南東麓が属します。

## 徳島市の地質

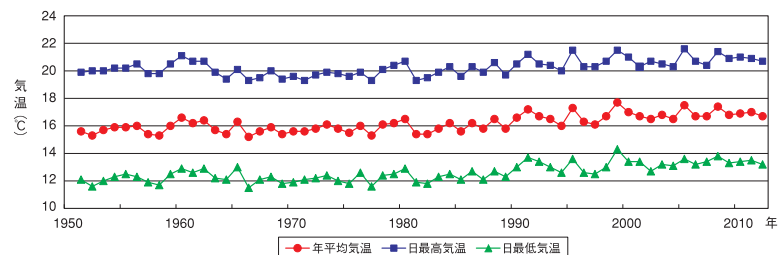


## (3) 気 候

徳島市は、降水量が少なく温暖な瀬戸内海気候に属しています。

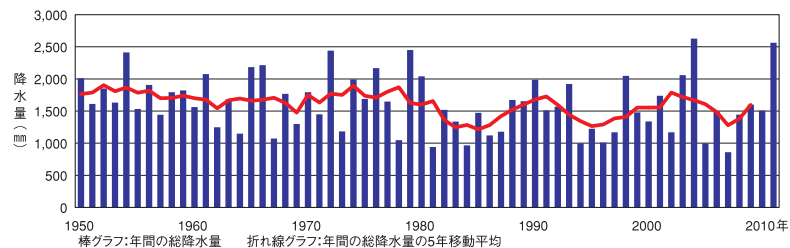
### ① 気 温

年平均気温の平年値は16.6℃で、全国的にみて温暖な気温帯に入ります。1950年代以降の年平均気温、日最高気温の年平均値及び日最低気温の年平均値は上昇傾向にあり、1950年代と2000年代を比較すると約1℃の上昇となっています。



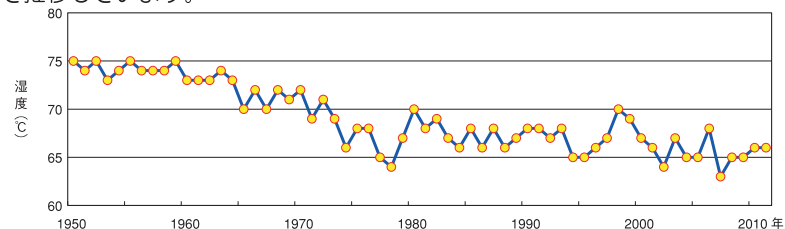
### ② 降水量

年間の総降水量の平年値は、1,453.8mmで、全国的には降水量の少ない地域にあたります。経年変化をみると、1970年代までは多雨でしたが、1980年代以降は少雨傾向にあり、多雨年と少雨年の差が大きくなっています。



### ③ 相対湿度

相対湿度は、1950年代は75%程度でしたが、1960年頃より低下し、近年は65%程度で推移しています。



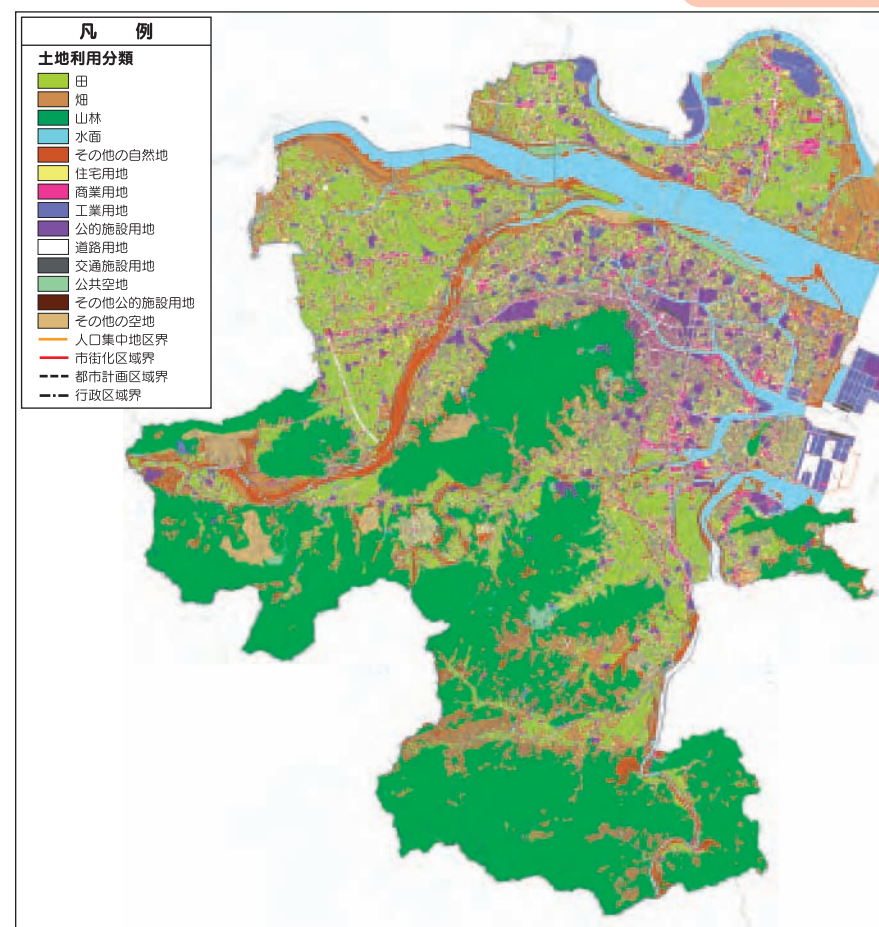
\* 平年値：1981年～2010年までの30年間の平均値。

## (4) 土地利用

徳島市の評価総地積における地目別面積の構成比は、平成23年1月1日現在、宅地26.0%、田24.6%、畑13.0%、山林30.4%、原野0.6%、雑種地5.3%、その他0.1%となっています。

地目別面積の主な推移について、2001年（平成13年）～2010年（平成22年）の10年間では、宅地が7.6%増加し、田が5.8%、畑が2.9%、山林が0.4%の減少となっています。

### 土地利用図



### (5) 大気・水環境

#### ●大気状況

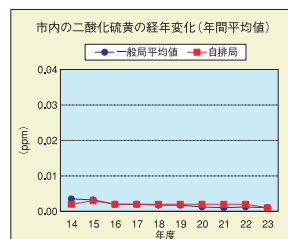
環境基本法により、大気汚染物質についての維持することが望ましい基準（環境基準）が定められています。徳島市内では、一般環境大気測定局〔4局：川内・応神・徳島（新蔵）・多家良局〕と道路周辺における状況を把握するための自動車排出ガス測定局〔自排徳島（新蔵）〕の計5局において、大気状況を監視しています。

#### ●主な大気汚染物質の状況

主な大気汚染物質の年間平均値について、平成14年(2002)～平成23年(2011)までの10年間の経年変化を示しました。

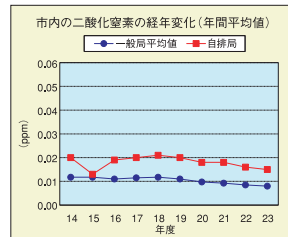
##### ①二氧化硫 (SO<sub>2</sub>) (環境基準値：0.04ppm)

工場・事業場で使用する重油等の硫黄分を含む物質の焼却に伴い発生します。これまで年間平均値は横ばいで推移しています。



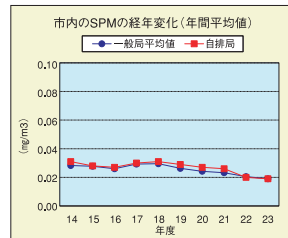
##### ②二氧化窒素 (NO<sub>2</sub>) (環境基準値：0.06ppm)

焼却に伴い発生する物質で、自動車排出ガスや工場、焼却炉などが主な発生源となっています。国道11号線の沿道にある自排徳島局は、自動車排出ガスの影響により、一般局よりもやや高くなっていますが、測定した5局とも環境基準を継続して達成しており、ゆるやかな改善傾向にあります。



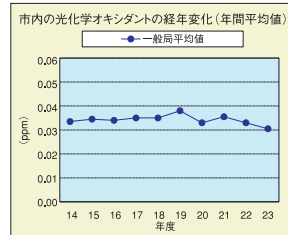
##### ③浮遊粒子状物質 (SPM) (環境基準値：0.1mg/m<sup>3</sup>)

大気中に浮遊している粒子状の物質のうち、粒径が10ミクロン以下の小さい物をいいます。これまで年間平均値は概ね横ばいで推移しています。



##### ④光化学オキシダント (環境基準値：0.06ppm)

自動車の排出ガスや工場のばい煙などに含まれる窒素酸化物や炭化水素などが、強い太陽光線を受けて光化学反応を起こしたものです。年間平均値は横ばいで推移しています。



#### ●河川の状況

河川では、生活環境項目の汚れの指標とされるBODにより、環境基準が設定されています。BODは、水中の有機物などが微生物により、生物化学的に酸化・分解される際に消費される酸素量のことです。徳島市内では、吉野川、今切川、新町川水域及び勝浦川下流で基準値が指定されていますが、いずれの地点も環境基準は守られています。健康項目（カドミウム、水銀など）については、いずれの地点からも検出されず、全水域で環境基準を達成しています。

#### ●主な河川の水質状況

##### ①吉野川 (吉野川大橋、環境基準値：2mg/ℓ以下)

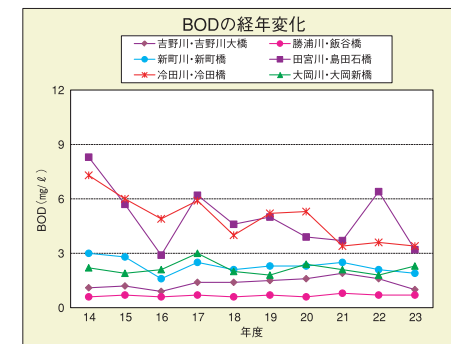
県内最大の河川であり、上水道、工業用水、かんがい用水等に広く利用されています。ここ数年の経年変化をみると、BODは1mg/ℓ前後で良好な水質を保っています。

##### ②勝浦川 (飯谷橋、環境基準値：2mg/ℓ以下)

県内の2級河川の中で最も大きな河川で、農業用水、上水道等に利用されています。流域に工場などの汚染源が少ないため、BODは1mg/ℓ以下と良好な水質を保っています。

##### ③新町川 (新町橋、環境基準値：5mg/ℓ以下)、(旧漁連前、環境基準値：3mg/ℓ以下)

1965年(昭和40年)頃は、工場や家庭からの排水の影響で汚染が進んだため、BODは30mg/ℓ前後もありました。その後は工場排水の規制や下水道整備、吉野川の水を流し込む新町川浄化ポンプ場の設置などにより、ここ数年のBODは、年平均2～3mg/ℓ前後で推移しており、水質は大きく改善されています。



#### ●主な河川の水質状況

##### ④その他の河川

下水道未整備地域を流れる田宮川や冷田川では、BODが以前は10mg/ℓ以上と水質が汚濁傾向でしたが、流域での生活排水対策等により徐々に改善の傾向が見られます。また、大岡川では、平成11年以降、周辺の下水道整備が進んだため水質が大きく改善されています。

## (6) 将来に残したい場所

徳島市が平成12年及び平成21年に実施した市民アンケートでは、眉山や吉野川をはじめ徳島市の特徴である水と緑に関する場所が将来に残したい場所・風景として上位に挙げられています。

### ●眉山・城山

眉山は、徳島市のほぼ中心に位置する標高290mの山で、市域のどこからでも見えることから、本市の緑のシンボルとなっています。また、徳島城跡の城山（標高61.7m）についても、市街地に近く徳島中央公園内にあることから市民に親しまれています。

これらは、市街地に隣接した山地にも関わらず、多くの動植物が生息する森林環境が維持されています。

眉山は、主にコナラ林で覆われますが、日本の重要な植物として特定植物群落に選定されたシイ林（スダジイ）などの自然植生も見られます。ノシランなどの植物が生育するほか、昆虫類のオオムラサキや哺乳類のテンなど森林性の動物が見られるほか良好な樹林地に生息するアオゲラが確認されています。

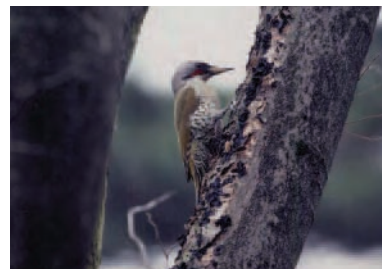
また、眉山周辺には錦竜水、鳳翔水など多くの湧き水があり、「眉山周辺の湧水群」として、とくしま市民遺産に選定されています。

城山には、全国的にみても残存しているものが少なく、徳島県内では唯一となるホルトノキ群落があります。ホルトノキは常緑の広葉樹であり、「市の木」として制定されているほか、城山の原生林として徳島市指定天然記念物に指定されています。

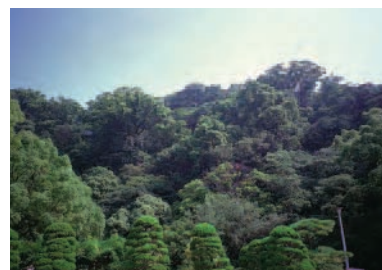
一方、ホルトノキ群落は自然度の高い樹林ですが規模が小さいため、樹林に生息する動物は少なく、昆虫ではアオスジアゲハ、爬虫類ではトカゲやヒバカリといった周辺を市街地に囲まれている環境を反映した動物が生息しています。



眉山



アオゲラ



城山のホルトノキ群落

\*とくしま市民遺産：普段の生活の中で見過ごされて、魅力や価値がありながら、十分に認識されていない自然景観や文化を市民から募集を行い、選定を行ったもの。

### ●吉野川・勝浦川

吉野川は、「四国三郎」とも呼ばれ、全長194kmの日本を代表する河川の一つであり、勝浦川も全長49kmの県内の二級河川の中で最も大きい河川です。

徳島市は、この吉野川と勝浦川に代表される河川の三角州で発展してきた都市ですが、これらの川が海に注ぐ河口部には、まとまった規模の干潟がみられ、環境省の日本の重要湿地500に選定されるなど、多種多様な生き物の重要な生息地になるとともに、水の浄化にも大きな役割を果たしています。

吉野川の河口域は、川幅が広く、水際には、ヨシ地を伴う干潟、砂浜が発達し、大規模な中州があるなど豊かな自然が残されています。

中州や干潟では、越冬地への移動途中であるハマシギやダイゼンなどのシギ・チドリ類だけでなく、マガモやヒドリガモなどのカモ類、ユリカモメやカワウ、サギ類、ミサゴなど多くの水鳥をみることができます。吉野川大橋から下流の河口域は「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」に参加するなど、渡り鳥の渡来地として世界的にもその重要性が認められています。

そのほか、生息数が全国的に減少しているシオマネキやハクセンシオマネキをはじめ、チゴガニやコメツキガニなど底生動物やトビハゼなどの貴重な魚類もみることができます。

また、吉野川河口や北岸堤防からの眺め、冬から晩春にかけて行なわれるシラスウナギ漁の風景は、とくしま市民遺産に選定されています。

勝浦川の河口には、干潟とともに塩性湿地に大規模なヨシ群落やハマツナーハマサジ群落が見られます。吉野川の河口付近と比較すると砂浜が少ないため、海浜性の動植物はあまりみられませんが、昆虫類ではヤマトヒメテントウ、哺乳類ではカヤネズミなど草地に適した種が確認されています。

また魚類では、干潟を好むトビハゼをはじめ、クボハゼ、エドハゼ、ヒモハゼなどハゼの仲間が多いという特徴があります。これは勝浦川河口の干潟と塩性湿地が重要な生息場になっているためと考えられます。



吉野川



シオマネキ



勝浦川河口の塩性湿地



ハマツナーハマサジ群落